

## 第 11 回 LNG 産消会議

TotalEnergies SE

会長兼 CEO、Patrick Pouyanné (パトリック・ピヤネ) によるビデオメッセージ

皆様、まず最初に、この第 11 回「LNG 産消会議」の開催を日本政府に感謝申し上げます。この会議は世界で最も評価の高い LNG カンファレンスの 1 つであり、政府、生産者、需要家を含む全ての関係当事者に向けて、未来への成長と社会の利益のために、業界の課題に積極的、先取的に取り組むことを促す、他に類を見ない、ハイレベルなイベントです。

TotalEnergies の CEO として、今年もこの会議に関わり、エネルギー安全保障とエネルギー・トランジションにおける天然ガスと LNG の重要な役割についての見解をお話する機会を頂き大変光栄に思います。

今日この世界で起こっている出来事は、「エネルギーは、いつでもどこでも供給を得られ、経済的で、持続可能なものであるべきだ」ということについて、正に人々への警鐘となりました。

供給の信頼性、経済性、持続可能性という三角形の三つの要素の全てが重要です。近年では、持続可能性や気候変動、適切なるエネルギー・トランジションが不可欠であることがより注目されるようになっていましたが、この地球上で現実の危機が起きてみると、エネルギーの安定供給と経済性の重要さが改めて思い起こされました。

ガス・エネルギーのシステムは、2021 年以来、幾つかの要因によって困難に直面してきました。

- 2021 年には、一連の異常気象がガスの需要とエネルギー供給の双方に影響を及ぼしました。
- 新型コロナ・パンデミック収束後の経済回復は力強く、エネルギー需要を引き上げ、LNG カーゴを巡るヨーロッパとアジアの競争を高めました。
- より構造的には、過去 10 年間にわたり石油・ガス部門への投資が世界的に不足していました。特にヨーロッパでは、天然ガスの供給源を十分には多様化できておらず、パイプラインや LNG 基地などのインフラへの投資も十分ではありませんでした。

2021 年に生じていたこれらの困難は、ウクライナでの戦争によって劇的に深刻化し、ロシアからのガス供給に大きく依存しているヨーロッパのエネルギー安全保障を危機に陥れました。ロシアからのガス供給は減少し、場合によっては失われる可能性があり、前例のない不確実性に直面しています。この供給不足と不確実性の高まりは、全てのエネルギー市場が関連しているために、石油価格、ガス価格、電力価格の上昇に拍車をかけています。

石油価格がバーレル当たり 100 ドルを超え、ガス価格が MMBTU 当たり 50 ドルを超えるようでは、もはや誰にとっても経済的な価格とは言えません。全ての政府は、需要家への影響を軽減するための緊急措置を講じなければなりません。これらの措置は、供給サイドだけでなく、需要サイドにも働きかける必要があります。その観点から、私は最近、消費者と産業部門の双方がエネルギー節約のための努力を分かち合う、前例のない取り組みを呼びかけることにかかわりました。そして私は、福島の大惨事の後にエネルギー節約の観点から日本が取り組んだ事例に、ヨーロッパは多くを学ばなければならないと考えています。

このエネルギー危機における LNG の重要な役割について触れる前に、ここで TotalEnergies がウクライナに対するロシアの軍事侵攻を強く非難していることを改めて述べておきたいと思います。これは人々に悲劇的な結果をもたらし、ヨーロッパ全体の安全を脅かしています。TotalEnergies は、ロシア関連事業についての明確な行動原則を定めています。TotalEnergies は、欧州当局によって定められた枠組みに従って、ロシアでのプロジェクト開発に追加の資本を提供しないこと、ロシアにおける自社事業への影響を考慮することなく制裁を厳守すること、ロシアでの活動をヨーロッパのエネルギー供給保障に貢献するものに限定することを決定しています。

現在の危機はエネルギー・トランジションにおける天然ガスの未来に対する大いなる脅威となるという意見を耳にしました。私は、逆に今回の危機によってトランジション燃料としての LNG の役割が更に高まったと思います。

ご存知の通り、TotalEnergies は、未来への、そしてエネルギー・トランジションへのグローバル戦略の基軸の 1 つに LNG を位置づけることを選択し、主要な LNG プレーヤーとなりました。当社の 2021 年の LNG 販売量は前年比 10% 増の 4200 万トンとなりました。これは全世界の LNG 市場の 10% に相当します。アジアの需要家やパートナーの皆様との強固な関係構築を続け、その一方で、米国産 LNG の最大の買い手であり、またヨーロッパにおける最大の受入能力所有者の 1 つである当社は、ヨーロッパへの供給も増やすことができました。

経済性のある LNG を供給するために、生産サイドでは、競争力のある LNG が調達できるように当社のポートフォリオの拡大と多様化を行っています。2022 年前半には、米国でのパートナーと共にキャメロン LNG の拡張計画を発表できたことを大変嬉しく思います。また、カタールエナジーから、巨大なノース・フィールド・イースト LNG プロジェクトのパートナーとして最初に選ばれた企業であったことを大変誇りに思っています。パプア LNG プロジェクトの開発も非常に楽しみにしています。供給サイドでは、長期契約の締結も推進しています。長期契約は価格のボラティリティを抑える最善の方法であり、また、資本集約的な LNG プロジェクトを開発するための基盤の確保になります。日本、および日本のエネルギー企業は、生産者と買い手の

間で長期的な売買契約を締結することを通じてウィン・ウィンの協力関係を築いてきた優れた実例です。

持続可能性の観点からは、天然ガスは、中国やインドのような石炭の大消費国の排出量を削減するための正しい解決策となります。また、天然ガスは、再生可能エネルギーの間欠性と需要の季節性に対応する柔軟性を提供することができ、益々成長する再生可能エネルギーを補完するために不可欠です。

しかしながら、LNG の温室効果ガス (GHG) 排出原単位は引き続き削減されなければなりません。これは、TotalEnergies にとって最も重要なコミットメントです。

- 生産および液化段階で、プラントの設計、プロセス、オペレーションの改善に取り組んでいます。
- LNG 船に関しては、船主と協力して、エンジン技術と船体設計の改善を推進しています。
- メタンに関しては、グラスゴー (COP26) で注目される以前から、長年にわたって真剣な取り組みを続けています。
  - 当社の操業施設からのメタン排出原単位は、既に 0.1%以下という実績を達成しています。
  - 2015 年から 2021 年にかけて、当社のメタン排出量をほぼ半減させており、更に 2030 年までに 2020 年比で 80% 削減するという新しい目標を設定しています。中間点である 2025 年までには 50% の削減を達成します。

当社の LNG 開発は、経済的で信頼性の高いクリーンなエネルギーを提供するマルチ・エネルギー企業を目指す当社の世界的な取り組みの一環です。TotalEnergies をマルチ・エネルギー企業に変革するという私たちの意欲によって、カーボン・ニュートラルに取り組みながらも、増大するエネルギー需要の課題に対処することが可能になります。私たちは、社会と共に、そしてパートナーやお客様と共に、この目標を実現します。

最後に、マーケティングおよびトレーディングを通じて、当社が日本への主要な LNG サプライヤーの 1 社となっていることを誇りとしていることを強調したいと思います。2021 年には、INPEX、中国電力、東北電力、関西電力などの長期契約買主の皆様と、多くの日本企業とのスポット取引のおかげで、日本向けに 400 万トン以上の LNG を供給しました。これは日本市場のおおよそ 6%、当社の全世界の LNG 販売量の 10%以上に相当します。

また、当社と日本の主要プレーヤーの皆様との強固な関係も強調したいと思います。日本は、買主の長期的な引取コミットメントと、石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) および

国際協力銀行 (JBIC) の財政的なサポートにより、これまでに数多くの LNG プロジェクトを支援してきました。当社は日本のパートナーの皆様と共にアジア太平洋、中東、アフリカ、北米で幾つもの重要な LNG プロジェクトに関与しています。それらの中には、INPEX とのイクシス LNG、三井物産/三菱商事とのキャメロン LNG、三井物産とのモザンビーク LNG も含まれます。

私たちは多くの課題に直面していますが、日本政府の支援と日本のパートナーや買主の皆様との緊密な協力を通じて、引き続き LNG プロジェクトの持続可能な開発を実現できることを願っています。また、今日における LNG プロジェクトのみならず、将来においても、日本が掲げるエネルギー・トランジションの政策の中核であるブルー・アンモニア、グリーン水素、再生可能エネルギーのプロジェクトでも同様な協業を願っております。

ご清聴ありがとうございました。